

未来を想うのは若者も高齢者も同じではありませんか？

第44回

大

往

生

の

勉強会



もしも事故や病気などで「自分の思いを伝えられなくなったら」
日ごろから備えるには、どんなことが必要になりますか？

日本は世界に先駆けて少子高齢社会を迎え、国の人口が減り続けています。
少子化の結果、介護保険などの福祉事業を支える人口が減り、社会保障は細り続けています。
私たちは命を守り、家庭経済を健全に保つために賢く生きなければなりません。
あってはならないことですが「もしも自分に不測の事態が起こった時」に備えるのも、とても大事なことだと思います。
平時に考えをまとめ、良い人生の見通しを立てるために、質の良い情報を手に入れ活用したいものです。

『もしもノート』（エンディングノート）の著者がそのヒントをお話しします。

■日 時 2016年10月2日(日)

受付開始 13時30分 講演 14時～16時

■場 所 遍照院 本堂 埼玉県上尾市上町1-6-6 (上尾駅東口より徒歩5分)

■講 師 須齋美智子 NPO法人ライフ・アンド・エンディングセンター理事長
『もしもノート』著者

■参加費 1,000円(教材費付)

■申込み 電話 048-855-1238 FAX 048-855-1006 Email office@npolec.org

■共 催 NPO法人ライフ・アンド・エンディングセンター ハッピーアイランド

■後 援 上尾市



☆ 公民館、公共施設、市民団体、一般企業などに講師を派遣しています☆

NPO法人 ライフ・アンド・エンディングセンター